

幼兒の唱歌遊戯

堀 七 藏

二

既に幼兒の運動遊戯に關して卑見を述べたから進んで唱歌遊戯についてこの愚見を述べることにする。私は勿論所謂遊戯について全くの素人であるから所説或は妥當を欠くことが多いかも知れない。只遊戯の専門家でない素人觀を述べることが幼兒教育上非常に肝要である。幼稚園の遊戯は藝人を仕込んだり見物人を喜ばすことを目的とすべきものでないから、根本的に幼兒の教育的立場で幼稚園の唱歌遊戯に對する注文を提出したいのである。

第一に幼稚園遊戯の振付創作をせられる方々に希望を述べたい。舞誦でも仕舞、またダンスでも誦でも、純藝術的立場で振付せられ創作せられることは勿論であらう。新しいもの、藝術的味たつぱりなものを作りして世間の喝采を博せられることも亦當然であらう。觀客の拍手を豫想して振付し創作し、所謂藝を賣ることも仕方がない。しかし幼稚園幼兒に行はせる唱歌遊戯は純藝術の外に求むべきものが必ずあるべきである。所謂幼兒教育の目的を達成する一方便として、幼稚園に行はれる遊戯として、舞臺に於て

觀衆相手に行はれる舞踊やそれに類似するものとは大に異なる點がなくてはならぬ。幼稚園の遊戯は幼稚園で幼児が行つて父兄を喜ばせる爲のものではない。また二三の幼児が行つて殘餘の幼児が傍観するが如き性質のものでもない。勿論幼児の行ふ遊戯を賣物にして幼稚園の宣傳をしたり、保護者後援會などの寄附を募集するが如き手段となるべきものではない。どこまでも幼児全體が悉く遊戯して樂しく生活するその一内容をなすべきものである。凡ての幼児が多少努力しても、兎に角、遊戯し得る程度のものでなくてはならぬ。特別な幼児が遊戯して大人が何と可愛ゆいでせう、と感嘆させねばならぬことはない。私の子供はどこそこで遊戯して拍手喝采せられました」と、その父母やその幼稚園の保姆の人々が得意を感じ名譽と心得るやうでなくてはならぬことは以ての外の注文である。幼稚園の遊戯はどの幼児でもその遊戯を行ふことによつて、その活動欲を満足し、身心を適當に發達進歩せしめるべきものでなくては教育的の遊戯といふことは出來ぬ。幼稚園の幼児は將來舞踊家にばかりなるのでもない。また越後獅子の小僧に勿論なるのでもない。仕舞の師匠になるのでもない。是等の藝人やそれを職業とする人が出るかも知れないが全體の幼児は悉くそれを目的にして遊戯すべきものではない。教育的立場を十分考量して幼稚園の遊戯を振付創作せねばならぬ。「誰が幼児を藝人にするために遊戯の振付をするものか。舞踊家になすために遊戯を創作せぬ。無論全く教育的立場に於て遊戯の振付創作をする」と主張もし、また實行せられてゐることと私も信ずるものである。しかし幼稚園教育者として遊戯の振付創作を

せられる方に對し、今一層教育的立場を尊重して欲しい。純藝術としてよりも、教育的手段として遊戯を作らせたい。満三歳や満四五歳の幼兒の喜んで出来る、樂しく生活出来る、幼兒の生活内容を構成し、しかも幼稚なる幼兒が身體も發達し精神も十分發育するやうな手段となる遊戯を振付創作をして欲しいのである。丁抹や英國などのカントリーダンスを焼直したり、我が國の盆踊の手をその儘組合せたのでは幼兒には適當しないではないか。少くとも大に發達せねばならぬ幼稚な幼兒、漸くよち／＼歩み、碌にスキップ出来ない幼兒に、あまり精細な動作を注文するやうな遊戯では幼稚園の遊戯としては困る、純藝術的な遊戯としては非常に立派でも、幼稚園遊戯としては上乗でないことは分り切つた話である。幼兒は何の意味か大人にも分らぬ動作を多くするものである。といつても幼兒に何の意味も分らぬ大人の思想感情で大變意味深長な遊戯を無理に幼兒に當てがふことも全く感服出来ない。幼兒は只活動欲を滿足する爲に遊戯をなすよりも、更にその遊戯のねらつてゐる思想感情の中にひたつて動作することが出来るやうでなければならぬ。只いや／＼眞似をしてゐるやうな遊戯は遊戯としての價値を半減することは明白である。それで遊戯の振付創作をする人は十分幼兒の動作を研究して頂かねばならぬ。

第二に幼稚園で遊戯を選択する保母諸君に注文がある。誰でも輕業師が幼兒を打つたり擲つたりして藝を仕込むを見ては幼兒に同情の念を禁じないであらう。如何に衣食の爲めとはいへ、頑はない軟弱

な身體をしてゐる幼兒に、無理／＼藝を仕込むことは誠に人道上等閑に附することの出來ない大問題といはねばならぬ。これと幼稚園の遊戯と比較することは以ての外ではあるが、幼兒に不適當な一遊戯をいやでもやらなさい、「是非この遊戯をせねばなりません。これは何時どこで發表するのですから、そらしつからやらなさい。その手の上げ方はいけない。もつとこんなになさい。あなたは下手だから誰さんのをちつと行儀よく見てゐるのです。」などと、幼稚園で幼兒に不適當な遊戯を強制的に行はせるものがあるとすればどんなものか。發表するが爲めに新しい遊戯を無理に練習させるならば輕業師の弟子に藝を仕込むのと大差がなくなる。輕業師は藝を賣つて業とするもの、弟子の藝を見て見物をやんやいはせるものである。遊戯の發表で幼稚園の名を賣つたり保母の名譽を勝得んとするものがあればその動機に於て彼は大差がない。何れも幼兒を大人の犠牲にする點に於ては同一である。寧ろ保育の美名の下に人の子を犠牲にする方が不道徳であるといはねばならぬ。私は我が國の幼稚園に於てかゝる不徳義な遊戯が行はれてゐるとは毛頭信ずるものではない。しかも往々にして不用意に、何氣なく幼兒に不適當な遊戯を行はせ、しかも發表のために無理な練習を行はせる場合が皆無くてないと聞くのは甚だ遺憾である。成程幼兒もうまく遊戯をなして大人にほめられるのを喜ぶ。母親でも父親でも自分の幼兒がかはいらしい動作をして他人から喝采せられることを親心として喜ぶに相違ない。幼兒がそれ／＼適當なる遊戯をなし、心身の順調な發達をし、それが併せて多くの人々から拍手せられるといふのならば結構である。發

表のため、幼稚園のために幼兒を犠牲にしてもかまはぬといふ精神で遊戯を行はせるならばそれは大變な誤である。本末轉倒であるのである。

私は玆に最も極端なる不適當な遊戯を幼兒に強要することが教育上に實に三省せねばならぬと考へるが故に述べたのである。それでこんな極端な場合が起る筈がないまでも、幼稚園の唱歌遊戯を選定するに當つてはどこまでも教育的に立脚し、幼兒に適當なるものを採用せねばならぬ。大人が面白いもの決して幼兒に適當とはいへぬ。新しいもの必ずしも幼兒に喜ばれる譯ではない。教師には大變古い遊戯でも幼兒には新奇である。まだどんなに古く數回數十回幼兒が繰返しても決してあきない遊戯こそ幼稚園に於て行はねばならぬ最良の唱歌遊戯である。保姆が新しい遊戯を追ふために遊戯の創作者もつい人氣を得んとして無理な創作が行はれるといふ傾向が今日多くはあるまい。幼兒に適當な話はくり返す程幼兒は喜ぶものである。幼兒に適する良い遊戯も亦幾度も幾度も繰返す程、幼兒は生活化し眞に幼兒のものとして幼兒は活動するものである。幼稚園にて行はれる遊戯は恰も算術に於ける二十以下の加減乗除の如く基礎的なものでなくてはならぬ。何時でも何處でも必ず行はねばならずまたそれによつて幼兒の心身の發達を促進する階梯をなすものでなくてはならぬ。従つて遊戯の數多きよりも少數の遊戯を精選せねばならぬ。新奇なる遊戯を求めるよりも、幼兒の發達に適當なるものでなくてはならぬ。歩行すること、走ることが凡ての競走の基本であるが如く、發達の幼稚なる幼兒に基本的運動を愉快に行ふこと

とが出来るやうな遊戯を精選して幼児の生活に編込まねばならぬ。所謂手の舞ひ足の踏む所を知らぬといつた状態で幼児が生活化することが出来る遊戯を選定することが肝要である。

三

眞に適當なる遊戯を精選すべきことは理想であり、是非之が實現を期せねばならぬ。しかも今日幼稚園に於て行はれる遊戯は悉く理想的なものとはいへぬ。満四歳の幼児といつても四月生の幼児と翌年三月生の幼児とは正に一ヶ年の年齢差がある。四歳に於て一ヶ年の年齢差を持つてゐる幼児、従つて身體の發育年齢にも大差があり、精神發育年齢にも著しい相違がある。それ等の幼児を三十人なり四十人なり一團として行はせる唱歌遊戯が果して凡ての幼児の觀迎するところとも考へられぬ。また至極適當なる遊戯と銘打つことも困難である。大體を標準として適當なるもの、成るべく多くの幼児に適するものを選定するより外ない。従つて幼稚園にて行ふ唱歌遊戯は悉くの幼児が喜んで行ふものともいはれぬ。甲の幼児には至極愉快に行はれるものでも、他の幼児には何等の感興も起らず進んで遊戯しようとせぬ場合が實際屢々起るのは事實である。

精選した遊戯豫定した遊戯であるから成るべく凡ての幼児に行はせるがよい。けれどもいやがる子供を無理強に遊戯させねばならぬことはない。成るべくなれば凡ての幼児が喜んで遊戯するやうに仕向けることは保育上至極結構なことであるが、どうしても遊戯をいやがつてせぬ幼児があればそれに遊戯の

強要をなすことは無理である。幼児の中には往々遊戯を好み者がある。その原因にはいろ／＼あらう。人に見られるのが恥しいといふものもあれば、あんな女のやうなことをするのがいやだといふ男児もある。かけっこならば面白いが唱歌遊戯は面白くないから行はぬといふものもある。いろ／＼の理由があつても、幼児のことであるから「どうしてもいやだ」といやだ／＼の一點張で遊戯をせぬものが五十人の内に一人や二人はある。こんな子供が一人や二人ると、「どうもあの兒は強情で困まる。どうしても遊戯せぬ。どうすればよいか」と、天下の一大事なるが如く心配する方がある。誠に尤もな次第で三十人なり四十人なりの幼児中に遊戯に加はらぬものがあると、大變都合が悪いかも知れない。しかもそれは保母の都合や便宜のことと、幼児保育上左程大問題ではない。遊戯をせぬとて幼児は遊ばぬ譯ではない。「葱がきらひだから食はぬ」といふ幼児をつかまへて「いやでも何でも食はねばならぬ」と強要する必要がない。これと同様に「雀の學校」の遊戯をせぬからとて叱つたり叱どしたりすることは甚だ教育的ではない。幼児のすきな遊びを行はせて、次第に遊戯の方へ引込む工夫をすればよい。無理にさせようとするこそ尙更いやになる場合が少くない。「いやなものは見てお出なさい」といふ態度で、すきな幼児だけに遊戯を行はせるがよい。すると模倣性に富む幼児のことであるから不知／＼手を動かし足を動かして、何時とはなしに團體遊戯をなすやうになるものである。

またどうしても唱歌遊戯をしない幼児には他の遊びなり手技なりをさせて置けばよい。その日の氣分

“遊戯がいやだといふならば何も強いて遊戯をさせねばならぬことはない。遊戯をさせねば保育が出来ないが如く考へることは以ての外である。

幼稚園令に保育項目は遊戯唱歌觀察談話手技等とすとあつてもその遊戯は所謂唱歌遊戯だけではない。廣く幼兒の遊び全體と解して一向差支ない。

僅かに唱歌遊戯をせぬと左程苦にすることはないのである。幼稚園に入園當初どうにも泣いて親から離れぬ幼兒でも一月たゝぬ中には悉く皆幼兒同志遊ぶやうになる。二三回遊戯に加ることを肯ぜぬ幼兒でも何時とはなしに皆遊戯を好むやうになる。只真正面から「そらやりなさい。どうしても遊戯しないと叱りますよ」などとおどしたり叱つたりすることは大に慎まねばならぬ。そして愉快に幼兒の理解し容易に遊戯し得る如きものを選ばねばならぬ。

保育講演會開催豫告

期日　來十一月十五日（土）午後一時より
同四時まで

講演　哲學的人間學と幼稚園教育

東京文理科大學教授 文學博士 楠崎淺太郎先生

歐米の幼稚園教育と小學校低學年教育

育

東京市昭和小學校長 服部翁先生

會場

東京女子高等師範學校附屬幼稚園遊戲室

會費

無料。幼稚園保育關係者の多數御來聽を歡迎いたします。會場の都合により御聽講希望者の氏名員數を豫め御申込下されたり。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

昭和五年十月